

## 畜産における暑熱対策について ～乳用牛編～

今年は異例の早さで梅雨が明け、熊本の暑い夏が始まりましたが、乳用牛の適温域は4～24℃の間とされ、21℃を越えると乳量が減少し始め、27℃を越えると激減します。熊本県では、平均気温は21℃を超え、最高気温は30℃を超えることが多く、暑熱の影響を大きく受けることとなります。特に高泌乳牛は乳生産に伴う熱発生量が大きいため、暑熱環境下では多量の熱を放散することが困難となり、体温が上昇し、呼吸数も増加します。その結果、採食量の減少等を引き起こし、乳量の低下、乳質の悪化につながります。また、暑熱環境下では維持に要する代謝エネルギー量が増加するため、飼料の利用効率も低下することとなります。このため、夏期の乳量・乳質を維持するには、乳用牛に対する暑熱ストレスの軽減を図るとともに、ビタミンやミネラル等の栄養充足率の改善を図ることが重要です。

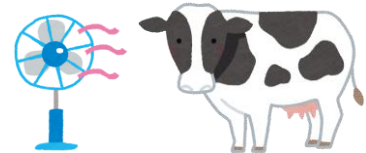


### < 畜舎環境の改善 >

- 畜舎外での工夫
  - ・ 畜舎側面に樹木や遮光ネット等の設置
  - ・ 屋根にスプリンクラーを設置
  - ・ 屋根、壁等への断熱材の設置、塗装（例：屋根への石灰乳吹き付けなど）
- 畜舎内での工夫
  - ・ 換気扇、扇風機での送風
  - ・ スプリンクラー等による家畜への直接送風、散水

### < 飼養管理の改善 >

- 体感温度を下げる
  - ・ 密飼いを避け、換気ルートを確認
- 飼料給与等の工夫
  - ・ 給水を充実させ、冷水を給与
  - ・ 飼料を涼しい時間帯に給与又は給与を少量頻回で行い、採食量を確保



今年は気象台の統計開始以降、最も早い梅雨明けとなり、気温 30℃を超える日が続いています。今月号では乳用牛について触れましたが、肉用牛（特に繁殖牛）、豚、鶏も同様の対策が必要です。

暑い日が続きますが、暑さに負けないよう、人、家畜ともに対策していきましょう！！

## 夏場における死亡牛 BSE 検査及びレンダリング処理について

蛋白ミール公社では、夏場（7月～9月）において、死亡牛の腐敗防止の対応として、土曜日午後の特別業務を実施しています。死亡牛の腐敗が著しく、適切な化製処理が困難となった場合、月齢に関係なく**腐敗牛処理料 35,500 円**を徴収されることとなります。飼養する牛が死亡した場合には、搬出するまでの間、風通しの良い日陰に保管する等の腐敗防止対策をとり、迅速に蛋白ミール公社へ搬入し、適正な処理を実施してください。また、搬入される際は時間厳守でお願いします。

1. 対応期間：令和4年7月1日～令和4年9月30日（3か月間）
2. 期間中の土曜日の受付時間  
午前 8：30～11：30（通常どおり）  
**午後 13：00～15：00（特別業務）**  
※ 期間中の日曜日及び7月18日（海の日）、8月11日（山の日）、8月15日（盆休）、9月19日（敬老の日）、9月23日（秋分の日）は**休業**
3. 腐敗牛による影響
  - ① BSE 検査不能牛の発生
  - ② 搬入時のクレーン懸垂不能による作業負担の増大
  - ③ 悪臭による環境問題の発生
  - ④ 衛生害虫（ハエ、アブ等）や野生動物（カラス、ネズミ等）による伝染病まん延の危険性
4. へい死畜（牛、山羊等）受付のお問い合わせ先  
株式会社熊本蛋白ミール公社 TEL：0968-26-3766

### 近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生日月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N2	台湾	家さん	令和4年6月2日
		フィリピン	家さん	令和4年6月7日
	H5N1	ロシア	家さん	令和4年6月7日
		ベトナム	家さん	令和4年6月8日
口蹄疫 (FMD)	O型	広西チワン族自治区	豚	令和4年5月23日
アフリカ豚熱 (ASF)		フィリピン	豚	令和4年4月8日
		タイ	豚	令和4年6月2日
		韓国	野生いのしし	令和4年6月13日

令和4年(2022年)6月30日現在

#### 家保職員から一言



梅雨が明けて、カやアブ、サシバエ等の吸血昆虫がこれから増えていくことが予想されます。吸血昆虫は異常産ウイルスや牛伝染リンパ腫等、伝染病を運んでくる危険性があります。殺虫トラップの使用や防虫ネットの設置等により対策しましょう。

異常産や吸血昆虫対策については、過去の城南家保ニュースでも触れているので、ご覧になってみてください！